



校報

けむやま

矢巾町立煙山小学校
H29.2.3(金) 第19号
紫波郡矢巾町北矢幅 1-2
Tel.697-3163

高め合おう
礼節を重んじ美しく

人生の種まき お年玉が届きました



昨年8月7日(日)に行われた煙山交通安全協会主催のレター作戦。5年生の児童が取り組みました。

代表の児童が矢巾パーキングでドライバーさんに渡したこのお手紙。そのお手紙の一つに返事が届きました。学校に届けられた匿名のお手紙には、なんと色鉛筆セットのお年玉がついていました。

この他にも、昨年多くの方々から一人ひとりにお返事が届いていたのですが、遅れてやってきた、この思いがけないお志に学

校としてもとても嬉しく思いました。

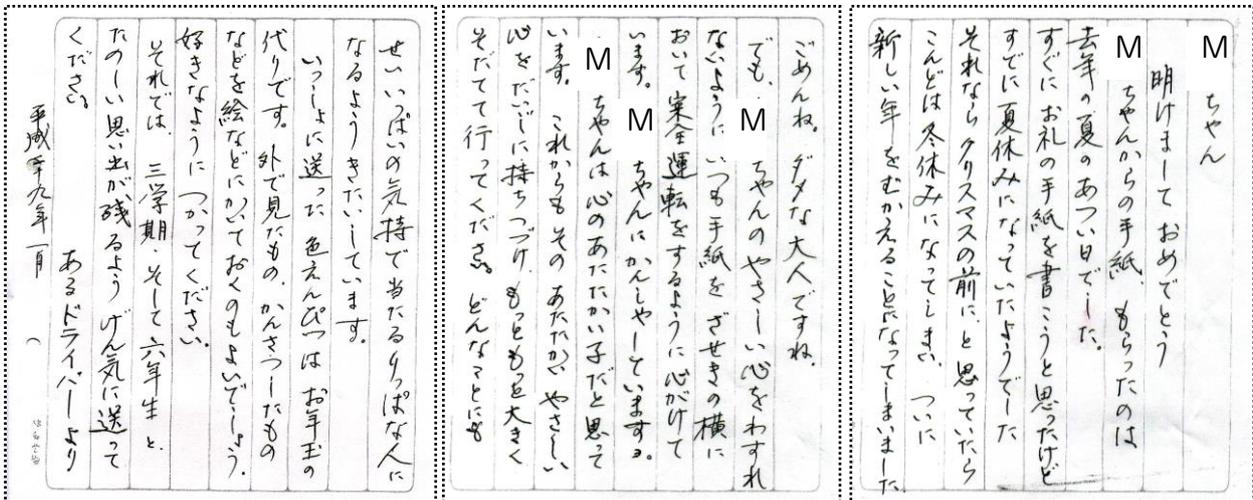
お返事が来なかった人もあると思います。でも善い行いのタネ蒔きをしておくと、いつか必ず形を変えて芽を出し花を咲かせ、そして実を結びます。

将来の自分のため、社会のために、これからも善行の種まきを日々実践していきたいものだと思います。

“こりゃ春から縁起がいいわいなあ”

今年はいいいことがあるぞ!

植福(しょくふく) 下欄参照
将来のために善い事を積み重ねて参りましょう。



植福…明治の文豪幸田露伴が記した「努力論」の中に記されている言葉。この中で露伴は「どうすれば人は必ず幸福になれるか」というスタイルの幸福論は不可能であると考え、「どういう心がけで生きれば、不本意なことが多い世にあって人生を肯定的に生きられるか」を説きました。

そして露伴が書いた本のタイトルは『幸福論』ではなく、『努力論』でした。幸福を引き寄せるために、露伴は「幸福三説」なる3つの工夫を述べています。

第1は、「惜福」。これは、福を使い尽くさないこと。第2は、「分福」。恵まれた福を分かちこと。そして第3が「植福」。リンゴの木がまだ花を咲かせ、実をつけているうちに、種をまき、接ぎ木をし、新しいリンゴの木を育てておきます。それを自分も含め自分の子孫が食べるのです。これが植福です。1人の植福がどれだけ社会全体を幸福にするか計り知れません。植福において、個人と社会の福がつながるのです。福とは天に向かって矢を放った状態だといえます。矢は必ず落ちてきます。つまり、そのままにしておいては福がなくなります。福をなくさないためにも、さらには福を増やすためにも、「惜福」「分福」「植福」の3つの工夫があるのです。

Web より一部引用



薬物乱用防止教室 租税教室



6年生を対象に、標記の出前教室が行われました。薬物乱用教室では、主にタバコとお酒の健康被害について学びました。

租税教室では、税金とは何か、税金で自分たちの暮らしが支えられているということ等をビデオを通して詳しく学ぶことができました。一億円の重みも体感。

お酒もタバコも税金も大人に向うための大事な知識です。教室終了後、講師の先生にお礼状を書きました。どの礼状も、以下のように、さすが6年生。もらって嬉しい、とても丁寧で内容のある礼状でした。

喫煙を続けると失うお金を考えてみよう。

1日1箱	410円
1ヵ月	12,300円
1年間	147,600円

20歳～60歳まで40年間吸い続けると・

$$147,600円 \times 40 = 5,904,000円$$

約**600万円**



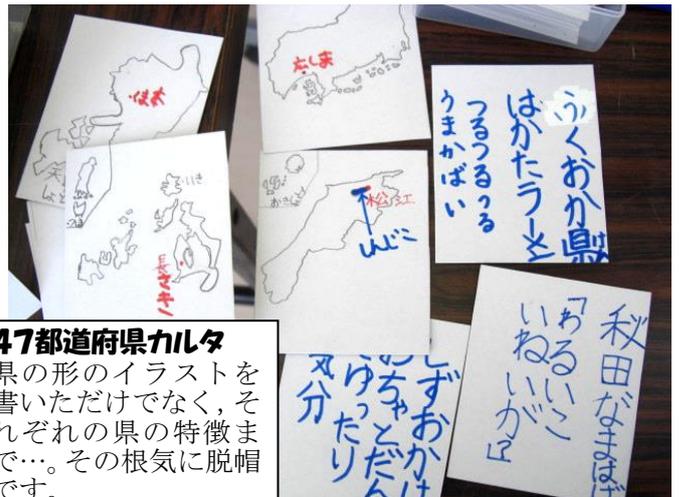
冬休み作品展開催

冬休みの作品展。全校児童の作品が、なかよしホールに集結。テーブルに乗り切れないほどの、力作・感動作・努力作・ユニーク作・傑作・与作？…。

工作だけでなく、実験、調べ物もこれまた面白い。



寿司わた マグロの部位が一目瞭然！レプリカが本物そっくり。食べたい!!



47都道府県カルタ
県の形のイラストを書いただけでなく、それぞれの県の特徴まで…。その根気に脱帽です。

薬物乱用防止教室で教えていただき、誠にありがとうございました。タバコを吸いすぎて、手や足、指を失いたくないので、タバコは吸わないようにしようと思いました。お酒は脳みそを縮めるので、今飲まなくてよかったと思っています。お忙しい中、煙山小まで来て、ぼくたちに教えていただき誠にありがとうございました。

【Kさんのお礼状】

※内容もさることながら、敬語の使い方がとても素晴らしいです。

昨日は、税金のことを詳しく教えてくださり、本当にありがとうございました。私は最初は税金なんてないほうが良いと思っていましたが、税金がないと道を歩いたり、交番に道を聞いたりするだけでもお金がかかると知って、税金がないだけですごく大変になるのだなあとと思いました。これからは、消費税や所得税など、いろいろな税金のことを知りたいと思いました。

【Sさんのお礼状】

※税金のことをもっと知りたいという意欲がとても素晴らしいです。税金は50種類もあるんですね。

冬休み親子読書カードより

子どもと一緒に4冊の本を読みましたが、なかでも、「おばあちゃんのさがしもの」は、介護を終えて見送った今読むと当時を思い出して切なくなりました。経験していなければそなんだと終わる本も視点も心情もまた別なものだと改めて気付かされました。 【1年生のお母さん】

赤ちゃんが生まれた瞬間の気持ちを思い出させてくれる本だった。これから、お兄ちゃんお姉ちゃんになる子、お兄ちゃんお姉ちゃんに損をしていると思っている子、親に怒られてばかりだと思っている子、怒ってばかりだと思っている親にぜひ読んでほしいと思った。 【1年生のお母さん】